太閤記

万弥

六

へ 13
1610
6上

1610
6

子冬 丑冬 寅 卯 辰 巳 午 未 申 戌

我之日本華京客
汝是一家同姓人
帝子帝爺前世契

万弥

本朝水滸傳 巻之十 一

第十九條

人置の高麗韓国の天神金沢とかつ。あるひとの
俊雄隠書をむかふ

武蔵の国を虎大江といふ。ある神田の行ひ。ひらひ割りく業ともるものの行ひ
為ぬ。ひらの俊雄といふ。ある人その割るうえ。ぐもとひとりくめかくべくだるる
武蔵にもまた年。八千歳のうち作造りく。国にもまた責あぐなのふりどに家を
冥衆さくたぐひ抜き出るりけ。ある人ほどにおのれ八業のりはまびぬ人とま
どらひくぬのこし家ぬりこひ。尾花を生こく。拾ひ取るりのこ家へりとあ
けり。美人ひとあるくて。桑ざるのりのとこれバ。ぬく匂ひ。ひどよ。
就よ代女八代家よあるくはるべしと知りふ八なり。ざるよりひ家を

ある家のひさる女どもハ嫉妬女の心根撰集くだり。かの原の八橋なる
妻のあとにぬるゝと人を恨いひなげ。けるほどよ。女人肝煎りのどもを。彼說
が家につかえひとの新系ハ世の中乃男にうちたれたる女の心をえりさく。
さる時とゐれバその家にのゝ押えくつろ。ゐ有もさく二月の二日といい
ゆよハ。ものあるハ百仕どもゆさ。かもぐるに。さる嫉妬女どり。とかくに毒の種さ
みよ。おぢく。ものあさ人さ。かそんとゐふよそのさうに女人形奥乃ぢ
が。その家ゆ人置の表紙といふ。のく。所る男ゐるが。家の妻てよハれをうひて。
繕仕人取り。所人置の表紙とゐ。たり。時ゐも。ゐうちに。彼方をひ方
へさ。かそろもちぐり。女をゐれ年来ゐ。新里よ。かゐもちぐり。新系
とくゐうで来るも。ちうく。二月二日ゐ。ゐれバ。表紙が家ハ妻安産とふ。の

さるのに女どもいりこみく。おのが。ぢくいひさるに。ひるゝ。が毒ハ。ゆ。ゐ。
竈のまへよりゐ。く。彼方ゆ方へと。ゐ。さぐに。彼ゐ。ゐ。八さん。嫉妬女
どもゆ。ゐうたるに。いとをうく。もさるが。く。もゐるかゐ。ゐ。今ゐ。ゐうと
て来うく。一人ゐ。かゐ。らいとほ。ちく。ゐ。ゐ。みゐ。かく。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
のいとたかくさ。ゐるに。たるゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。

く新まゆ多りの毛ゐ行り。八そくくまゐ〜せんといふ。沼よまゐハ眉ハへ
文さにたゝ人ゐ紅れく。頬のくまいときくゐく。鼻ハ杵〜れくうちひゝ丸。顔ハ
いとゑく尖ゐる。ゐ。あさいゐまりゐれバいそび。ゐるゞうちゑく。ゑ。もゑ。頭ひ
つ。ゐ。ゐの四ゑハいゐよ。ゑ。たゐん。いゞこの人ゞと。頭ハ。毛野のゑ。頭田ゐくゐる
とゃん。さゝゝゐの沼よまゐるハ。色のいとゑゐ。ゐ。ゐ。

あの人につれてくるけれどもこれくとてうきむらふうけのあり所なるその花
ハ花ゝ所の仏とやらんうけのあり所なるあさへ今あり所にまゐりてくべゝ四ひても
べれば。さるやうなるべゝ人玉の玉簾とゝ。おくたまへとゝ仏ゝまゐりといふよ。
おくてゝ仏ゝかたく。後新吸一月ゝ人たまゝ。ゝ。ゝ乃緑ゝりとも。かゝ仏
新ゝりとのたまふべゝれど。これゝ人たゝへ玉の頬赤の獨四人せゝ
歌色のあゝ花ゝ。彼ひかねゝとゝりひくまゝゝ。ゝ仏まるゝせバ。吸
一月ゝ四ゝのゝまゝけゝ。ゝ仏ひ花ゝられ新ハ花ゝられ。ゝ神ハゝ
あやゝられたまゝゝれどゝる歌の人乃ゝりひかけたまふゝなり。後新
みもかいまゝみゝゝゝゝ千年の金ゝひ花のゝゝ。ゝゝゝとゝりふ。
ゝゝゝゝよ仏ゝゝゝとゝゝゝゝ

まづ一死人のおやお母より死あひたるかよはとうたりと
こびたまふ所なく　おのれいとあさく　面引ぬさる間君乃神さみまふ
にいとそはるのうちよハつうふまつんをうしぬさうに家ゆうとあぶ桑
よ伯母ゆつけく　淫毒とまうさるひまんは　雅ゆあつんちの所むつひて。
人金の志鋪くゆ合せく　ゆのえまゆ　せんぷうるそも　母ゆかいまみ
給ひぐとしハ　後部きあつく　だとうとの母のけとひハ　百のゆ　ゆ性ち
あつく　ゆうんも　神ゆうとゆるまふ母よハ　ひまさうぬべ　ことに私の
お母ときけバ　かいまゝもせどうかひもせじ　やさう命　とき志鋪と
むつ人　金ハいうぐとうとも　ゆあつく　ぷうゆ　ゆよさとひべ　ぷふハ　雅屋
よ　居れ　ゆくゆけるぐのつ　まふよ　ゆれ　おのれもちろ　家

うぐうつくられぶる氣　ちむ　御　ぐ　ぐ　処の　掟　ハゆ　ぐ。
志鋪ゆくかのーたまふとくうち　張　居たり　志鋪　ゆ　ゆくうちよ
ろこひ　ハハとよ　近つぬ　ゆとい　ぐ　ぐ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ハいと遠　玉　ゆのうとも　遠　ハ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ぐ　ゆ　ゆ　ゆ　ハ　ゆ
ゆ　ゆ
ゆ　ゆ
ゆ　ゆ

行ハ稽疑ハ罪をのがれ死るをみるまねをしてあがくく。庭の草をはらひて礫を
よせうりをとりくその家を宮わよ。そのかゝをもるる死。伯母ごもつけ
おけ。おのれハこゝをひまのゝんとて。金百枚まうけあく。ものかたるまる。
その外もそのくさん場所ごもハ行よまれ家よいとく入ぬ。さて人
面のりこの場うく。おくく。閑ひこう。今ゆをこと長家にいたく。廣樓
えこひ。ゆをどりく。高死かまゝんとゝハ。まの諸うち筆ひく。その家ハ松掃
んまも廣ひとゝだもをびゝ。御くゝ。ゝ。ゝ。

まづ先よ寄りたまへといふにぞ婆ちの人よ寄ひくるもそバ下女
どもよ寄つべさせく。伯母るも寄りよそのあへうつりたまへ拍子ハまる
ゆまどのあ〜バ下男もそこにさむらふなどいひち〜ぞそれ
つち家の門男ハ今寄りぞやはるんそれさ死よ来るひし花が谷の
姫女と色の間の約女と。式二人ハ肉屋の娘ひ人るもやく寄りる。
彼代ハ銭二百地紙くいもそこに地そひ頬赤擬何もつ死く消見
中させるど。あるくいひ地紙く。友神とりひて立ち居ぞ行る
に笠ぬく寄るりかうどのいとそ寄りが。ちる法もきび面ざーうり
ちづくく涙ものいとたち死ぬ来ハ立地られるのくう世の中い
と別ぬ人の彼伯母ぞ。年のやど四十歳をうまく。色もいと

ちそ寄りが法ひく。人金の表紙をの人ハこれまくもぞかといひく。ちカも秘
おびつこのれば。花木ちーア寄くはまーせ〜まといくく。立ぬとうてちぞ
〜ふぞにいぞ形ひ。伯母の刀自ものも折いくるどーく。彼今寄りぞもがたち
みちたるぷいひげるるのも法るれどとみかうこてきびぞよえいまび。
今寄ぞのやど。ぷれくま濃させたまへ行るのもやはえまり地紙ねる通
寄りぞ。さそこぞかくまるるハいづこなるかハちーねどぷ行ちとうけかうぬる
に伯母の刀自りくひとかよきとえまんさハ法せたまへ今まぐくちば
しの山陽もつふまくーざるく。今歌のつよさびーく地さんといひつ
ぞ法さまる地さんく。ぷハ笠るがーうちかまぬくく。寄るどうちかく行るも
よく寄ぬくるどとまえまちう。伯母ぞバとこよ地紙く。ちりくに法ぞれ

てゆうたなの事なれば。花木ハつゝくことなきまゝ。仰母ごまごのゐ神
ゐどまるに。色も異うちかてさそはれ若〳〵人みも変ぬやうも果てれど。
今ハその家よ来んとまゆるに。下女ハ先ゝ来ぬべしけり。

第二十條

与屋の俊敏人金のあ物狂ひ弟に乞ふ

二王神を乞ふ。

人金の表物狂ひの天神先ゝ来ぬ。弟の下女死来ぬ体
ひゝく来りつるに。ゝくことゝく。ゐまゝ人たち黄昏よ造りあせる殿の侍
に出ぬ物きゝくゝれば。さにゝよ我家のあやしにまもあく変ひつゝようも。
いやまさりに悪らゝく。重さ一のいと苦くあてあるものひとをゐるまゝ人ゐ

まのでもいゝ形ゝ大ぶ乃宮安とゆさんみも。又ぬう八おをきゞとみゝよ。彼仰母
とい家もなゝくの人よりゝ。ゝくゝ生れあゝ稼のたゞるに。さゝるかゝこみ八よく
別ゝる人金ゐれば。天神ゐ一同よまゐ花ゝ。びゝ女平人よ八ゐびゝこゝは
我ゝ人ゐりゝ人ゝ。ゐゝも後才のたゝ形ゝとのひゝがゝこも破ゝてゐん
人とも兄ゝ白ゝ。今ゝ中人ゝ女ゝの後ゐ。彼女ゝ神の中ゝ白ゝ形ゝ。
ちゝゐゝ形ゝ花ゝまひゝ仰母ゐとゝこ八ゝの中ゝ住人のたゞひゐゝんでい
れば。さいゐゝくもゐゝかゐゝ。ゝ中ゝ天の守八神田彩止後与ゝ中たゝふゝ初ゝかゝく
地ゝ生ゐに。ゐゝ。後ゝ業のゝくゝ。ゝも。人の身乃彩ゝ生ゐ行広学のゝ名ゝ。
さゝ生ゝ人のたゝゝ後ゝも。ゝ中後押。ゐゐ。ゐゝけたまゐゝんとゐゝ。
ゐたゝむゝ形ゝ。後安八ゝゐれまゐゝ。たゝゝよ。後ゝ牧ゝ。

せんそこも於の人まく。此ゆう家もあつたまのふとゝろに儀文一通あるゝ
てあつたまゝ人おれみたものよりに手紙をうんといふ大神宮くはをもまた
ゆよハたゞれど我ハ文字ゆ書ものしび。唯今とて書ものめんゆハえせど。
よく〳〵伯母よハよく〳〵男よかゝ行ふにゑみたのしてかいまゝ。
先ゆちゆるゆハあるんん。人金の出ん年（ウン）取ゆてたまくとゝハゞのといく
て玉手箱（とき）ゆ。たる箱の。云いとかゆまゝくこまやかゆ。ゆ。ゆけくまゝり
のべく。伯母よ云ゝとまゆきく。なゝ云人の儀文をかいたまゝ。ゆ。ハものつねゆ
ゆゞ。ゆさまのゆゆくまゝだれバ。ゆ云ハ我よりゆさんゆ。ゆく書たまくとて。涙（ワヘヘト）（レルレフ）（ウ）
奥紙（ク）のいとゝろ。ゆさまゆくあゝ。ゆそゆべゝとそ。ゆく〳〵一條つゝよ。ゆ毒のゆ（フミムハ）（ヒトクメリ）（コヒナメ）
とゝひあゆゆバ。伯母ゆ手紙をゆゞめく。ゆよハ。ゆ使人ゆゝとハゆ。これ。毒ゆゆ（ヲ）（ヲ）

ちゆゞりハ。ゆ。ゆゞとのゆよゆ。ゆゝとく。ゆ。ゆゆ。ゆゆ。ゆ

よ死るゆゑにそヤうれ。毒ゐどものるハちゑうアさびゆゑ家あるゆゑ
つゑくハゆゆりくの金銭ゆゑ一たるゆゑびやさるゆゑさうちうれゆゑそこ
こそいくゆゑかうみもたうひゆゑあゆゑ死ゆゑれとてゆゑみもたうゆゑ。
人玄かうと撥眉ゆゑひつりくさるゆゑも今東後新の系れとのこま
ひこうるゆゑさるゆゑ流ゆゑハこそうりもゆえ新〜いうせんくゆゑ〜く
まゆゑ絶文のうくゆゑ仕人と書世たうくゆゑのうハいうゆゑりうみもた
うひもゆゑんこそいうゆゑ。伊毋の刀自さハこそうヤたまくこそいふ
ゆゑものゆゑくかいうけたう絶文よいうく。

一つゆゑ仕人死ゆゑのゆゑハゆゑ岡源ち新ちゆゑの新乃りのゆう。
ゆゑ殺ゆゑ家ゆゑ仕人とゆゑうく。ゆゑん殺仕ふまううぬ

二つゆゑゆゑ家のゆゑハうけのゆうこそくゆゑもたゆゑ死ゆゑ〜〜
三つゆゑ天下のゆゑ殺ゆゑたうひゆゑ仕〜ひゆゑく守〜せまうこ〜
ゆうゆゑたこそいうこゆゑの横ゆゑゆゑきぬゆゑも殺〜ゆゑくうゆゑを苦〜め
ゆゑ〜〜

又つゆゑ一年ゆゑ婦ふ科こそ金ゆゑ殺ゆゑうちゆゑ仕度金ゆゑ二角ゆゑ
とうくゆゑる仕年のゆゑ死ゆゑれゆゑうこそめ〜つうれ仕ゆゑみちち
仕定ゆゑかくゆゑたゆゑのゆゑ死ゆゑるゆゑ仕ゆゑ殺ゆゑのゆゑ死ゆゑんゆゑ死ゆゑのゆゑたゆゑゆゑ仕流ゆゑ
傷ゆゑのこそ〜

天平勝宝二年二月二日

与座後新とゆく

輝国の大神
人玄の表新

とをこ〻も女びび男女ゑ〻ろくかつけく女せバ人金よみ給ふ。ゑ
ハ男の拍書ゑどふハいうぢかりゝ和ゝれる。ぴよりて女子第く。よつ乃
大人立業とゑたゝ人ゑどいひたゝ人。懐の袋より宇ひとつゑゑ〻く押せだ。
女神ハさゝ拍も拍〻びとゆゑ。こハ行るゑゝく。よの大指くゝゑゑゆゑりて押
せざゝゑゑのゑもゝろゝゑ。まづ食のまゝひせんゝく。ゑ夏ゑ昼よハ夏ゑ和も
とゑ。菓ゑよハ菓和かとゑ。和ゑ昼よハ和和かとゑ。宍人どよびたゝく。饗
いゝ虎ゝとう個ゝくまづ安ぢちよまゑ〻せつ。おのれらハ和うち飲
て。ゑの者ゑ和拍よ人ゑの下女よまゑべさせく。俊雄入来ゑたゝ来ゑく
いゝ遅〻といひゝれバけゝゑ人ハ来よまぎれてゑどいひゝゑゝく。
ちゝやまゑゑくかゝいゑよ。せんよりゝ第ゑりたゑひて行ゑびゑつゝときこ

ゆゝよ。をゝ〻ゝ祝れやゝく。おのかゝれよゑゝくはくくゝとゑまゑてひゝを
くゝとゑゑみかゝ。二人弦ゑのねきゝく。ゑ八人よハ行〻〻ゝ。姓ゑの化たゝ和
ゑゝゝを拍ふかゝゝとゑ〻バ秋よくけゝふ〻。夜ゑどもかをゝゝゝて第〻
んよ。彼山の神乃いゝゝとくいたくゝれゑふにぬ第〻をゝく内ゆいで
つれバ明かゑふさゑゑゑ。桜やかゝゝゝゝゝぬゝゝとゑのひのみゝれたゝ。ぴゝ槽や
ゑ死款のゝとゑゝたゝ和ゝく。俳よかゝつくゝどゝとよゝ行男のさま
ハ面ゝとみ〻かく。ひゝ和ひ〻ゝ眼のゑゝうちたれゝゝた。笑のゝうハゝとひき
く。言の穴ゝ空ゝゑゑひたきゝ。ハ髭ようち垂れ。髪ハ古ゑ乃ごゝく和
拍く。白髪生ひ変ゝゝゝ。ハ人行ゝゝゝゝ耳のゝいゝとゝく押れて。
吸物の天ゝゑゝ。さハいゝよけゝふまゝゝとも。花木行よ艶ひゝゑんや。大

神奥ゐ紙くうちさゆくに。伯母も死木もあるく。このかたた
るよおりひあで。延ゐも有び礼るえるわどいへば。俊斑ハ改弥序
ゐひとつけくうゑづえ。まづ彼方へ拾せよ。ゑハひとかこ。先彼方へ
くといふゆ。人玄まかがくゑ。ゑハ仏のあで。仕人おくひ。唯今流文
も書ゑくくさむらゆといども。唯わとくとくいとゑ紙のうを。
冊嘗ゐうちをえたるむうえ。うちうくゆ。たるハ出りあるどるゐ。
ちひさるえゐ接るえ。天ゐゐゐハ。今の極とゐ。ゐ
ちくう。さて正月ゐハむうひ居殺れハゆうあ。えのうゐゐ造うけたゐ
貧のゐのむるゐ上ゐ。産るゐゐ白居く。柳ゐを当れゆ。ゐの氏氏
とで極ゐさりけゆ。伯母ちかくゐくく。今年のうのハ年ゐむうあく。伯

るもうひくくくむるえ。茶ゐの風俗もあきれハゆ。心猪ゐうちゐくくく
つうひゐうれかゐといふゐ。ゐゐの形くゐくもうもえむうえ。人玄ハ改弥
かえ行うえく。酒ひとつとくうゐゐとも。俊斑ハ改弥ゐとせくいく
ゐびうちうが。御くはゐさゐよまれども。にごりゐゐうひちづうて。歯ハご
ちくくと行。今ゐゐ。酒ゐゐゐとがひゐ。ゐゐ。茶木ハゐとゐう。彼弥
有くくのごもんとゐれバ。ゐゐ。ませくくといひつ。彼ゐる。稚ゐどゐてかえ
ゐくひ。唯ゐ弥ゐうく。来。酒弥ゐ。ゐてゐ。ゐとく。俣のかくくゐゐどいひゐれ
ゐ。ゐ。歌ゐゐ風のいとゐむく。ゐ。ゐゐゐゐや。ゐゐくゐん。ゐ。ゐハゐかゐびとく。
ゐ。ゐとゐくゐ。人玄も釋迦も。ゐゐゐゐハゐゐゐゐゐゐ。ゐゐゐゐゐ。
くくといひく。殺びゐ。ゐゐゐく。ゐゐも。同弥ゐゐ。ゐゐ二人ゐゐゐゐゐゐ。ゐ

れば。家をも家よ我ひとり捨られたるおもひをく。性うむ死くなるべし。
伯母の刀自ちかくあるべ。背丈かのるまぐるべ。花木ハ山よりもたべ
らば。氏伯母うもかくもたかくひまるせん。そぶかりうよハ山方のやをとと
いへば。俊類ゆ下げよりうげく。伯母君いとかぐけれ。ばなかゆさまゆ
もひ下ゆべ。ばうもうの山をもといめよ。せのたくハさまくよもぐれど。
金よこえたる財宝をもぐうべ。我しかく遠江よりぐうく。ばん拍ひ
つるまうんとやひも。ゆくられば。ばかるハび。ばるようけてもせのこぐえ
のくなう。今ゆをもまづかくゆせよ。ばるの表ゆをまきば。金三百枚
ぐうゆ袋よりく。かをもたまくといへば。俊類ハうちうめづえく。ばるべ
こいふをもうるよゆハ伯ゆへうゆをたるとく。松焼させく内うのいく

ゆねさせるとべ。伯の下女ゆ来りく告るに。いそやいえるよ伯えん。ばるの方
ゆのるに行せよと。背丈ハ逃さまに踏く。これハ伯背るえん神もいびをかて
行んるどいひく走ゆりぬ。人金ハ伯とうつくろひく。かく伯えやうゆる
家よ。女のくゆいでゆをさせん。ゆ神家りく。ゆをせよ。夫ばよく。ゆをせよ。門ハ
よく。ゆめてのゆどいひくゆぬ。ゆ神うちうえゆりて。門をハ強かあたち
うりく。妹よ我妹のとゆぶよ。ゆるうとをかりがりうとのさまハまれば。大
神使婦のりの立退え。ゆ背丈よ。ゆをひまをもうまりいとくかうくもゆるかる。
今ゆをさゆをきたのいるうちうびてゆをてまひえん。我ゆるりのゆは
よくゆのえゆえくりへばゆうくりやもくゆりうべ。我妹よくたゆるかり
てりへばゆ目の表ハかるべ金ゆくあるべ。さをもうゆえたうをゆべ

ろかどおぼしめしぐ死ぐかぶ世の中よ人のぶぶん者ぐろさーをおもせ。後世むも
びいりんよハ彼なんとりーくてハいろよせんぐ。ちのよハ世はきこ仏軍ろんと死。
ちなくてハいろよせんかぶ序よとかねく秋婦とヤあをせさむらふやうづれ
仏物の大法乃法よ。者仏今をする者のもぐるぐ。ち仏法のくたむかーせく。
仏法まぐ彩まくおーせもぐーんとねりふ彩ち。ちかくていかでもくねもー
まきん。今歌より十日ぐかりハかくはをがさをやうされて。ちぐーくの仏べぐり
をおがたく後くやがてよ死時仏みくひ死をおーまりよ死仏仏まりけく
ちのぐをせきんとこ。かさ彩まをまえをふよ。ちハ仏まぬの人を彩く
なのゆ彩りとのくまりふよ。彩もよ死れぐちづまーせまり。婦ハさーふひまり
て邪ぬ。大神ハ邪の方を守りて寝ぐ。歌乃かりてやくよ人面もをくいく

来くぐいろよ吼歌ハ嵐ごりの強ぐーんぬ。四物日ど後ぐうやうどいひく。仏嘉と書
ちくーめぐる彩ふもみうろめくくいふ仏。大神笑く仏母ぐいかさまよもを
かぐーべーとぐいひ彩くくをうぐちの日乃夕者ぐるれバ仏後ハ夜日どいと彩
しくて。金ハいひーぬ仏袋よいれくうて来。これ仏母君よをれまりーん。紙
彩くをまふ日どいひく。今歌ち金やりつと物ふ後よやぐそこーを人め死く
さのをも忘れぐ。花木ちかく来れどさ彩ぐーん迎もせぐ乃ぐよいく地表
てひーくと彩ぐ。ぐくとをめく仏。我山の神ハいくこ仏ぐーたまふ仏さだをて
彩ねりとんぬ。彩乃地表や我高の歌よるどいひくぐ。ちよりめ死な
がぐ。明日の秋又といひく後ぐよ。ぐ一方乃ちハ乃ぐとて高ぬさる詮に
人面も後ぐれバ人もあん仏。今歌ハ君の法よ高ーがりたまふ仏。嫁ぐ大神

まむひく。今のさる花ごとに殺生にはぶり。あたまふぢをたさむくばびちかよ迎
いれまゝづやとのふよ。友神はのく。ぢをとろうよハたべんど。天下の民は扶がされ
さ。望大きのぢうろくもはえ扶をきんとたべる君のかゆ飾はよかろくくしく
扶をーまくハ後殺ハたや第るまゝど花がと近くれバ人妻ゆろわく立てべ。
君ゆいよ立ものだせまゝんよべもきこえまゝごとく。君のかゆ飾わさまた
ぢをろこにやうさせのふも。吹天の民殺をはがひ見るうさゝバまむゝーの出たた
ひゆゆやとい人だまのくはのめーとろく。友神いよかひるくくちをーた
せと扶がひんがやきーくこそとくまの殺を出歌よ押ちてたまふよ。とを
くハうんをんれどびづのくりてなりきこえなるにその歌も吹くくえの歌す
るれバちゆハとよくけそふさく。今歌ハとおりひつるよ人をもたはまゝび

まゝびろ松焼しと入来りぬ。傷あひろひさく。今歌ハよくやりおたくさむらふ。
花木も待よ待まゝーゝゝびひとろ伊毎がをのとふよ。行よまれいくまに
まかせまゝーせんとはのゆうに。我くゝが後井乃殺よひがこれもはゆーと松歌ゝ
ちゆのくくハもゝれど。是ハとまゝくくゆちゆ割者もかくかねてびづかく割り
ゆよさのうゝ美絶りくくよの持をころ口切義ー。今ハ業のゆかみハゝ。
そゝうくよ西国の守ゝ千紙のちうを作りくくなるゝ花ちぎりを作りそのの
ちゆ代ハを花よ渇りくもゝる花ちの金沢遊人よりこれよハかるハゝびちゝ
割らゝゝ守の出碧よあひくくいとを苦くちをたゝゝと花なりぬ。ちをんゝ
花木沢扶ゝーありゝ。千弦のちゆを殺よ稼せくくのゝさゝバ絶文をも妻
とかいりたちのゝりゝゝ出ゝよ殺ゝたせをんといよ。ゝハ又金ありもいと

ゆもし。ぞれど今歌とそハあ新し。ぱるるゐ中つけく。千張のちを絡るゑ死が
さハ又浪花の浦よりくらんやづゑとゐへど。俳諧の大度の涙まぐとゐ。
俊雄ゆくゐくもとその比俊よろんさまにきべし。さてこのひとゐへば。
伊毋うち笑て。宮碕姫ゆくさむくとゐふよ。俊雄うち弱て。碕
姫とハろれのゆとゐふよ。おもひの紙みとゐともく。俊雄さこにゆひ
ひゆもひの紙よくとくゐたびも考るに。月絡つきたりとゐへば。俊雄
改をかたくこハ。ぞれ死ゆるりぞれどうのゆハたゞ。ぱるるゐ友神を
涙よつくほし。ゆたく。香り紙をえ。宮あたゆへとくゆくゆるにろて
人金ゞ来るよりひて。ぞゑと。同へば。人金ハ彼れ俊家よ来るゆりとゐ。
俊雄人金ゆちくゆまねきゑひとろひ宮あ紙るゆのゆ来ゆ。ぞゆたゑ

伊毋も死ゆもよくみるゆ直人ゆゞび。おれ杵とろ日の歌ゆりと来ゆ俊
ゆのよなりくぱくく。歌俊考ゑみるよ。天ゆゆ弱動。たづべきひとゆ
俊よもゞりとみきまづその歌ハ金三百枚をこひ。まにとやもく承
りくゆみの歌りて来りくやりつゆのひるゆ乗りひとがめてもゞるむねて。
いとこのちゆよ絡りやんゆゞ。さまのくいひとりて。我よ千張のちを絡
ゆたゞゞ。死ゆもゆるまゆかもべ。とゐふたとく。涙よまれ天ゆの投われバ。
さる紙の異を私よ乗りやらゞ死やゞ考らいゆるゆ人ゞ。そ俳よハ人金よ
くよくゆ涙ゆよハゆれゆあゞれバ。ゆりく月定ゆくたゆくとゐふ人金ゆ
てさハ今歌来ゆるハそれらのゆまゞ。さ死のゆれ俊家をりとゆて。ゆきゆ
うつし伝んとちゆりと死ゆのれハ形ゞりしゆゆ。ゆたのゆんゆてきゞり

けるを。笠浦くまく。世俗ものぶさまの人まうく。行ゑかわゝん死本とうち
さまの紙屋どゝ。浦くいひちぎらふさまおどのちゝく。はえく。たびは風流
越ひく。剃ものとや。ちの母ハ浦くさいつゞく。ゆ紙どものやきをてゆまゝ。
老ハ死びと。ゆりひ。女どものたうさまどり流たゝし。又神ゞのさこたる
たうさまの流考るに。ちの与屋ど金屋どらひみくさむらふ。路流乃さま
もいぶかゝく。行るに。行ゑもたれ乃ゝ。ゆるゑもゆゝバ。四ゑを宝く。流の川場よゝく。
ゆゝよ。書細をきこえたげたまゝ。ゆのれも立をひさく。よく。はゝうたまえん
さまに。ゆくゝなまゝんとふゝそ。流紙もさゝるゆゞとゆうゆづ死さゞバ。ゆゝり多
んといひさゝるれゆ。又の母乃名づ。ゆづさにるれバ。まのあゝ屋をたゝれよゝり
てゝと流ゝげ母に。死まハ。ゆう人のゆゝ流ゆりひつげく。ゝとかゆゝく

おゝゝゞれく。ゆもゆすくて。ゆ屋ゝう。伊母の刀自ちゝくゝゝゆゞさゝ流く。
今歌ハ書も流ゝよゝち屋の行ゝじも。ゆをゝゞ。人ちづゝるゝゝろゝゆゝバ。ゆゞゝ死
歌文の死流いひゆゞゝく。ゆゝくをひゝゝゝむゝくゝれをゝんとゝゝバいゝと。ゝれ
しく。ゆたのゝく。ゆりほゝく。ゆゝゞゝゝたるゝゝ。流く。ゆ死ゝく。流
母ゞまるゝゝり。書ハゝゝ白く。流ゝゝるゝゝゝく。ゆゝむく。流くに。門ゝゝ八人ゝゝゞ。
伊の三つゞゝりにゝれゞゝ。ちゝ屋の母ゝ。もみゝゞ。人ゝ。まゝて。ゝねバ。今
歌ゝをゝれゝと。ゆりひゝく。又神ゞ。寝ゝく。行ゝゝ。ゝゝちゆゝゝんゝく。ゝに。
門ゝゝよ。ゆりゝく。笛流。流ゝゝて。行ゝゝもせゞ。流ゝゝ。ゝゝ。ゝ声のゝゝもたゞハ
ざれバ。ゆゝく。ゝゝゝちのゞまゝ。ゝゝゝゝ。又神ゞ。見流ゝゝゝゝくゝゝ
ゝゞめんと。ゆゞゞゝよゝゝを。ゝゝを。門行ゝ。伊母と二人ゝて。門の金ゞ。ゝも

こゞ[illegible]けるゆゑ[illegible]くみれバ。女神ゞ身を[illegible]人ばひ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

陸奥守こくりたるゝ。みちのくの方よハ秋田三田寄藤多り。
又蝦夷の国よハ出羽ち秋田嘉夫押猪まつりくゆゝ。ゆるねたひて
ゆう人ゆ秋ゝくきこえよ。おゆかりと

二月ゝ日　高橋乃手力

内舎人蓁忘す勝虎を

同　勝行を

とかいとめたり。大神ちの文をれ。ゆゝだたきてもゆくきこれたりゆゝ。たの
り紀人よりひつかるゝのでちのゝせたゝまんとゝまゝ秋姫をよびゆくゝまゝ。
ゆり。今一府だりうの方よ立ちのゝせたゝまんゝゝ旅のゆゝのちひをいりきま
よゝもかゝつくゝうひ第ゝせよ。秋ものせんとゝくかゝもくゝ屈ゝ地けゝ手の先

のちゆり。ちゝ刀二振をこれゆくゝ立ゝきみだをゝたをうゆけ抑結ゆゝひ。
牙の猪ゆをもよびゆく。彼伯母がたゝかりこれる三百枚の金を義ゝよゝれ
をこゝろよきゆゝ。ゝゝゝゝ八方級の義ゝをゝちゝ立ゝ第ゝせ。秋ハ切りき
みのゆゝ秋ゝ。ゝゝを内親王をたをけまゆゝせ猪ゆゝ出ゝんをゝゝ立ゝ
て首領のゝをきゝくゝゆゝ。ゝゝみの用ゝ立ゝ神田級の解級家級ゝ
のゝ孫ゝ秋ゝをゝくゝ。絶松をゆり熱をゝのゝ代家ゝ秋ゝ百重よゝゝみ。
門をひゝ紀ゝをゝゝ。ゝゝゝゝくゝみれゝゝゝくゝハゝゝねゝゝゝハゝゝよゝゝ。
ゝ屋人ゝのゝ二人をゝのゝねゝゝくゝ。ゝのゝゝまゝをゝりゝゝゝゝゝ人ゝゝゝゝ
ゝゝねゝゝゝゝゝ

て。彼二人をいろ〳〵ちぎり。神田祭の繪をさしてとうぬ。

南新町師匠之十作

明和十癸巳年
正月

江戸書林
大坂書林
京師書林

平右丁十軒店
山崎金兵衛

仏祐橋南久宮町
蔦木清兵衛

寺町五条上ル丁
井上忠兵衛

寺町丸太町下ル丁
梅村市兵衛

寺町四条上ル丁
神先宗八

御幸町竹屋町上ル丁
野田與兵衛

寺町姉小路角
藤野安兵衛

寺町仏角ル丁
鶴鶴屋兵衛

御幸町仏光寺上ル丁
梅村宗助

寺町四条上ル丁
井上源與門

後編近刻